

NGO-労働組合同国際協働フォーラム 2014 年度活動報告

(2014 年 9 月～2015 年 8 月)

はじめに

本フォーラムは、NGO と労働組合間の相互理解と協働事業を促進することにより、『国連ミレニアム開発目標 (MDGs)』に掲げられた、貧困、人権、平和、環境などの諸課題の解決に寄与することを目的として、2004 年 9 月に発足した。設立 11 年度目にあたる 2014 年度は、NGO19 団体（うち参加 NGO3 団体）及び労働組合 14 団体が参加して活動を行った。そのうち NGO8 団体、労働組合 9 団体により構成される「合同企画委員会」の運営のもとで、グループ活動とタスクチーム活動を継続した。

本活動報告では、「フォーラム全体の活動」「事業別タスクチーム活動」「課題別グループ活動」「事務局体制」「フォーラム会員団体一覧」について報告する。

I. フォーラム全体の活動

1. 合同企画委員会

計 4 回（10/23、2/26、4/15、8/24 開催）の合同企画委員会を開催し、本フォーラムの活動方針、活動計画、予算等についての協議と承認を行った。

2. 全体会の開催

参加 NGO も含む全メンバーを対象とした全体会を 2014 年 10 月 23 日に、合同企画委員会と兼ねるかたちで開催した。

3. 広報 メールマガジン発行

昨年度に引き続き、メールマガジンの発行を月 1 回行った。フォーラムとしての取組みを定期的に報告した他、フォーラムメンバーである各団体のイベントやキャンペーン情報の掲載など、情報発信の場として活用することができた。下記ホームページに、メールマガジンの登録フォームを設置している。2015 年 8 月末時点の登録者数は 256 名。

- ・連合：開発協力活動（NGO との協働）のページ
<http://www.jtuc-rengo.or.jp/kokusai/kaihatsukyoryoku/index.html>
- ・JANIC：NGO-労働組合同国際協働フォーラムのページ
<http://www.janic.org/activ/ngounderstand/unionforum/index.php>

II. 事業別タスクチームの活動

1. シンポジウム開催タスクチーム

1) 開催の背景

例年開催していた学習会を発展させ、メンバー団体のみならず、メンバー以外の NGO や労働組合、一般市民をも対象とした、「NGO・労組協働フォーラム」の趣旨にかなうシンポジウムを開催する。シンポジウムのテーマについての理解を深めるとともに、本フォーラムの活動を効果的に広報し、出会いの場を提供することで、新たなメンバーの獲得を目指す。

2) 開催目標

- ① MDGs/SDGs について現状をわかりやすく伝えるとともに、達成に向けた NGO と労組の協働を促進する。
- ② 本フォーラムの活動を効果的に広報し、新たなメンバーの獲得につなげる。

3) タスクチームについて

- ・メンバー：IUF-JCC／中田、日教組／狩野、連合／大久保・本吉、ACE／山下、ジョイセフ／佐藤、JANIC／富野・井端・渡辺
- ・会合回数：5回（2014年12月下旬～2015年6月下旬）

4) 活動実績

- ・シンポジウム名：「MDGs/『ポスト 2015 開発目標=持続可能な開発目標『SDGs（以下、ポスト 2015（SDGs）』の今～NGO と労組が協働でできること～」
- ・開催日時：2015年7月27日（月）14時～16時半（13時半開場）
- ・会場：連合会館 2F 大会議室（東京都千代田区神田駿河台 3-2-11）
- ・共催：NGO-労組国際協働フォーラム／連合
- ・実績：来場者 76名（関係者含む）、NGO 活動紹介デスク参加団体 8 団体
- ・プログラム

開会挨拶：大久保暁子（日本労働組合総連合会 総合国際局 国際局長）

基調講演：『MDGs/ポスト 2015（SDGs）とは、現状と課題、

NGO と労組の連携に期待すること』

田村政美氏（外務省 国際協力局 地球規模課題総括課長）

グループ事例発表：HIV/AIDS 等感染症グループ、母子保健グループ、児童労働グループ

パネルディスカッション：『ポスト 2015（SDGs）に向けた協働の課題と展望』

モデレーター：稲場雅紀氏（動く→動かす 事務局長）

パネリスト：田村政美氏（外務省 国際協力局 地球規模課題総括課長）

石井澄江氏（公益財団法人ジョイセフ 理事長）

五味哲哉氏（JAM 総務・企画グループ長）

フォーラムへの参加の呼びかけ、閉会挨拶：

富野岳士（特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC） 事務局次長）

5) 成果と課題

参加者からのアンケートでは、約 70%が「有意義であった」と回答、全体的に満足度が高く、特にパネルディスカッションの評価が高かった。シンポジウムへの参加動機として最も多かったのが「SDG」への関心であった中、本テーマへの理解が深まった一方、フォーラムの本テーマへの具体的な取り組みに関して意見が寄せられた。

開催目標①は概ね達成することができたが、②は新たなメンバー獲得に関して課題が残った。新規メンバー募集の際、事務局中心でフォローしていく必要がある。タスクでの企画・実施およびグループでの事例発表の企画・実施は、内容面の充実、効率性、メンバー活動として有益と考えられる。シンポジウムのテーマ設定とメンバー募集をいかに併せて達成していくかが今後の課題といえる。



Ⅲ. 課題別グループ活動

1. 児童労働グループ

1) グループの基本目標

児童労働は働く私たちがまず考えなければならない問題ということから、労働組合と NGO が協力することにより、問題解決に向かうことを基本目標とする。また児童労働についてのもうひとつのネットワークである児童労働ネットワーク(CL-Net)とも協力体制で臨んでいく。

2) 2014 年度の目標

昨年度は CL-Net との協働でキャンペーン・フライヤー「ストップ！児童労働キャンペーン 2014」の制作に協力、キャンペーンの一環として実施された署名活動やレッドカードアクションにも、児童労働グループに参加している労働組合が協力するなど、児童労働やキャンペーンの広報活動に協力することができた。

この連携を活かし、2014 年度も CL-Net との協力体制を維持するほか、児童労働を伝えるツールを整備し、労働組合員や一般市民に対して、児童労働の周知を図る活動を労働組合と NGO の協働で実施していく。

3) 活動実績

① 組織運営

a. 参加組織

労働組合 6 組織(NTT 労働組合中央本部、IUF・JCC、自動車総連、JAM、日教組、UA ゼンセン)、NGO 4 組織(アムネスティ・インターナショナル日本、ACE、国際労働財団、FTCJ)の合計 10 組織で活動を展開した。

b. 事務局体制

ACE が事務局を務めた。

c. グループ会議

以下の日程で、8回開催した。

2014年9月1日、11月13日、12月3日、2月16日、3月31日、2015年6月3日、7月24日、8月31日

② 活動報告

a. イベント主催・出展

・ 第86回メーデー中央大会(2015年4月29日)

メーデー中央大会に出展し、写真パネルの展示と缶バッチ作り、「ストップ！児童労働キャンペーン2015」の署名活動とレッドカードアクションを行った。

レッドカードアクションでは、来場者にタペストリーの前でレッドカードを掲げてもらって写真を撮影し、その場で写真をプリントして持ち帰ってもらえるようにした。43枚を撮影し、のべ81名が参加した。



・ 連合「3.8 国際女性デー中央集会」啓発カフェ(2015年3月6日)

国際女性デー中央集會会場での啓発カフェを母子保健グループとの共催で実施した。パネル展示、グループ活動紹介ちらしの配布と児童労働についての説明を行った。118名が来場。

・ 労働組合定期大会

UA ゼンセン定期大会(2014年9月10日-11日/ACE)、JAM 定期大会(2015年8月27日/アムネスティ、ACE)に出展し、バナーの展示と児童労働についての説明、フェアトレード商品等の販売を行った。



・ NGO-労働組合国際協働フォーラムシンポジウム(2015年7月27日)

フォーラム主催のシンポジウムで、児童労働の概要とグループの活動内容を発表。劇を通じて「なぜ児童労働をなくさなければいけないのか」を伝えた。

b. 展示ツールおよび写真パネルの制作

児童労働を伝えるツールとして、展示用タペストリーと活動紹介パネル、写真パネルを制作した。先行して制作したタペストリーは、労働組合定期大会、国際女性デーでの啓発カフェ、フォーラムシンポジウム等のイベントなどで活用した。

c. 講師派遣

名古屋市立大学伊藤ゼミの訪問受け入れ(2014年9月)、NTT労働組合中央本部からの依頼を受けスタディーツアー事前学習会への講師派遣(2015年4月)を行った。

d. CL-Net と共同事業

「ストップ！児童労働キャンペーン 2015」の広報協力を行った。広報物としては、キャンペーンフライヤー(18,000部)とウェブサイトが制作され、キャンペーンの周知とアクションへの参加呼びかけに活用された。キャンペーンの一環で行われた署名活動とレッドカードアクションには、児童労働グループ参加労働組合などから多くの参加があり、キャンペーンの広がりにも協力することができた。

【キャンペーンの実績】

- ・ レッドカードアクション:写真 357 枚、参加人数 5,779 人
- ・ 署名:筆数 51 万 3,795 筆(累計 170 万筆)

4) 成果と課題

- ・ 児童労働の問題を伝えるツールとして、展示用タペストリーと活動紹介パネル、写真パネルを制作することができた。今後、労働組合の大会等のイベントでの展示や写真展の実施など、児童労働を知る機会を増やすことができるよう、活用を働きかけていく。
- ・ 展示ツールの制作やシンポジウムでのグループ発表を通じ、グループ内で児童労働問題をどう捉え、どう伝えていくのかを検討・確認することができた。
- ・ 一方で、各組合の中で児童労働をなくす取り組みを広げていくためには、「なぜ労働組合が児童労働に取り組むのか」から伝えていく必要がある。理解を促すためにどのようなことができるのか、またどのような取り組みが必要かを検討していきたい。

2. HIV/エイズ等感染症グループ

1) 基本目標

労働組合員や一般市民に対して、国内外のHIV/エイズ等感染症の現状と正しい知識を伝え、予防と、職場内の差別や偏見の解消を図り、国際的な取り組みを行う労働組合ネットワークやNGOを紹介し、その活動への支援参画を促す。

2) 2014年度の目標

- ・ HIV/エイズに関する問題や課題について、一般市民・労働者への普及と啓発に貢献する。
- ・ グループ参加団体とHIV/エイズやその他感染症に取り組む関係組織との協力関係を強化する。
- ・ グループ参加団体がより一層HIV/エイズ問題に関する知識を深めるため、グループ参加団体個々の持つ知見を共有し、より効果的に啓発活動を行えるよう研鑽に努める。
- ・ グループで作成した啓発プログラムメニューを使用した、ワークショップや勉強会を、積極的に実施する。

3) 活動実績

① 組織運営

a. 参加組織

労働組合2組織（インダストリアル・JAF、IUF-JCC）、NGO 5組織（AAR Japan [難民を助ける会]、AJF、シェア、PLAS、国際連帯税フォーラム）の合計7組織で活動を展開した。

b. 事務局体制

グループ事務局は毎年持ち回りで担っており、2014年度はIUF-JCCが担当した。

c. グループ会議

グループ会議は以下の日程で7回開催した。

2014年9月12日、10月22日、12月1日、2015年2月20日、4月7日、5月26日、7月22日

② 活動報告

以下、HIV/AIDS予防啓発イベントを企画、開催した。

- ・ 映画「トークバック沈黙を破る女たち」（監督：坂上香、2013年）上映と監督とのトークバックセッション（語り合い）イベント>

実施日：2014年12月14日15:00～18:00

場所：アキバシアター（秋葉原）

参加者：約70名（事務局含む）

内容：

当日は投開票日であったため労組関係者の参加は得られなかったが、NGOからの呼びかけよりおよそ70名の方に参加いただいた。

映画上映に先立ち、労組側を代表しIUF-JCC中田展宏よりNGO-労働組合国際協働フォーラムの活動について、また映画上映に至った経緯などを説明した。

また、NGO側を代表し（特活）アフリカ日本協議会・稲場雅紀よりHIVと共に生きている人たちへの差別と偏見の現状。感染症（エボラウィルス病、デング熱）対策における保健システムや国際協力について報告した。

映画の舞台はサンフランシスコ。元受刑者やHIV陽性者を含んだ女性だけのアマチュア劇団で、虐待、強姦、ドラッグ、売春、エイズなどの過去を持つ女性が、芝居を通じて自分と向き合い、社会に挑戦していく、8人の女性たちに光を当てたドキュメンタリーで、その日常をトークバックするというもの。自らの過去を受け入れながら人生を切り開く姿を赤裸々に演じることで、彼女たちにとっては、克服するための治療にもなっているように思えた。

映画を観た参加者は、その根本にある社会の問題にも目を向けることに繋がった。

上映後、坂上香監督は、映画制作について、どん底を味わった彼女たちが、芝居を通じて新しい生き方を模索する姿に強く心を揺さぶられ、沈黙を強いられている人々に伝えたかったと語った。また制作過程において多くの困難があり8年を費やし完成した事、その道のりについても語ってくれた。

参加者からは、映画の感想や、海外と日本とのケアシステムの違いなど、多くの感想や質問が寄せられた。

坂上香監督は最後に、現在、様々な場所で同様のトークバックを開催しているが、見ず知らずの仲間でもトークバックからコミュニケーションの輪がうまれている。仲間の存在が人生を自

立した強いものにできる。自分から動くことの大切さを知って欲しいと締めくくった。
終了後は監督と語り、サインを求める多くの参加者の姿があり、イベントは成功裏に終了した。

・メーデー中央大会

実施日：2015年4月29日

場所：代々木公園

来場者：約200人

内容：

エイズについてのクイズ、コミットメントボード（来場者参加型）、HIV関連クイズ、ポップコーン販売等

一過性の認知や活動から継続的な行動変容に繋げることを意図し、コミットメントボードを設置し、参加を促した。予め提示した①HIV感染予防活動、②陽性者および患者に対する差別への反対、③自己周辺に対す意識啓蒙活動、の3種の活動の何れかを選択して、自身の今後の行動を宣言して頂いた。

ブース来場者の企画参加の促進を目的に、ポップコーンの製造販売および配布を行った。

具体的には、エイズ問題もしくはコミットメントボードへの参加頂いた来場者に対し、ポップコーン等を配布することにより、労働組合関係者や一般市民のHIV関連の国際および国内課題への認知を高める機会の向上を図った。狙いは的中し、グループが提供する教材等へのアクセスを相当程度高めることができた。

4) 成果と課題

映画上映とトークバックイベントの開催により、HIV/エイズや関連する薬物問題等の背景にある問題や、当事者の苦悩、偏見や差別等に関して、一般市民・労働組合員の方の問題意識を高める機会を提供することができた。メーデーにおいては、必ずしも課題に対する認知や関心を持っていない対象に対しても、物販およびノベルティーを切掛けに展示へ誘導することで、HIV/エイズの課題を伝える機会を拡大する事ができた。

グループ活動での企画を発端に、メンバー組織のNGOと労働組合との相互関係が構築され、エイズに関するワークショップやスタディーツアーの継続的な企画・参加が実現継続されている。

3. 母子保健グループ

1) グループの基本目標

- ① 労働組合とNGOが協力し、国際的な母子保健の課題について継続的かつ分かりやすい啓発活動を行い、組合員や一般市民に課題意識を高めてもらう。
- ② 妊産婦保健と乳幼児保健の実質的な改善につながる様、実現可能なアクションの参画を拡大化させる。

2) 2014年度目標

1990年代にさまざまな国際会議で定められた開発目標と2000年9月に開催された国連ミレニアム・サミットにおいて21世紀の国際社会の目標として採択された「国連ミレニアム宣言」とをまとめたものとして「国連ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals：MDGs）」ができました。MDGsは国際社会の支援を必要とする課題に対し、2015年までに達成すべき目標などを掲げています。2010年にミレニアム開発目標首脳会合においてMDGsの進捗状況を検討した結果、貧困人口の減少や就学率の向上などはみられたものの、母子保健分野では依然遅れが目立っている

ことが分かりました。この結果を踏まえ、国連事務総長と各国首脳は、民間企業や国際機関、財団などととも女性と子どもの健康増進にむけての取り組みを行うことを宣言しています。

最新の統計を見ますと、2013年の世界の妊産婦死亡率は210人であり、1990年の380人に対し45%減少しました。しかし、2015年までに掲げている達成目標は、1990年と比較し75%の減少であり、現状では目標に達成できない状況にあります。私たち母子保健グループでも、より多くの市民、組合員に本国際課題に対する関心を一層深め、解決にむけての取り組みに参画してもらうことを目標とし以下の活動を進めていくこととします。

- ① 途上国における妊産婦保健の現状や課題について、多くの市民や労働組合員に発信していく。
- ② 上記のための具体的な方法として、各種会議やイベント等に併せて、参加型の学習会やセミナーの実施、ブース出店、パンフレット配布などの啓発活動を実施し、更に実現可能なアクションに繋がるよう取り組む。
- ③ 連合構成組織内の認識を広げるため、パンフレット、機関紙、ホームページなどを活用する。
- ④ 他のNGOや労働組合に、グループ活動への参画を呼びかけ、活動拡大を図る。

3) 活動実績

① 組織運営

a. 参加組織

労働組合一国会連労働組合連合会（国公連合）・日本基幹産業労働組合連合会（基幹労連）
・全日本電機・電子・情報産業労働組合連合会電機連合（電機連合）、運営NGOー公益財団法人ジョイセフ、参加NGOー特定非営利活動法人HANDS、特定非営利活動法人ワールド・ビジョン・ジャパン、以上、労働組合3組織、NGO3組織の合計6組織で活動した。

b. 事務局体制

ジョイセフが担当した。

c. グループ会議開催

11/4（火）14時30分～16時30分 新年度活動確認他@電機連合

1/14（水）14時～17時 7月記念シンポジウムの内容検討他@ジョイセフ

3/2（月）14時30分～16時30分 「国際女性デー中央集会」活動展示カフェ開催に関する事前打合せおよび会場事前確認（児童労働G関係者と）@カフェ

3/13（金）13時～15時30分 「国際女性デー中央集会」活動の振り返り会合（児童労働G関係者と）@ACE事務所

6/29（月）15時～17時 7月記念シンポジウム活動に関する打合せ等@ジョイセフ

7/17（金）10時～12時 記念シンポジウム内容の最終確認、新年度の予算および活動計画について@ジョイセフ

7/27（月） 記念シンポジウム終了後に、シンポジウム活動の振り返り交流会開催

8/21（金）14時～16時 活動報告及び会計報告等@ジョイセフ

※上記会合以外はメールにて調整業務を実施

※NGOフォーラムタスク会議（12/24、1/27、3/20、4/28、6/30）に参加

② 活動報告

・ NGO 労組国際協働フォーラムに参画している労働組合の各種機関会議やその他外部イベントなどの機会を利用し、母子保健グループが啓発活動として取組んでいる開発途上国の妊産婦保健や女性が置かれている状況や課題を紹介するためのパネル展示やリーフレットの配付やチャリティアイテムの頒布などを行った。

9/5 (木)	基幹労連主催定期大会
9/10 (水) ~11 (木)	UA ゼンセン主催定期大会
10/24 (金)	連合主催中央女性集会
1/26 (月)	国公連合主催中央委員会
1/29 (木) ~30 (金)	電機連合主催中央委員会
3/5 (水)	連合主催国際女性デー中央集会
4/29 (水・祝)	連合主催中央メーデー
7/6 (月) ~7 (火)	電機連合主催定期大会
7/27 (月)	NGO-労働組合国際協働フォーラム・シンポジウム

母子保健グループとして、MDGs の妊産婦保健の改善進捗や母子保健の課題および労働組合との連携の意義について発表する他、ブース出展により活動を紹介。パネリストの一人としてジョイセフ石井が登壇し、SDGs が目指す内容について紹介。

・ 外部イベントでの展示活動を通じた一般市民への広報活動

9/27 (土) ~28 (日)	港区立男女平等参画センター主催「リーブラ・ビッグフェスタ」
10/4 (土) ~5 (日)	「グローバルフェスタ 2014」
11/11 (火) ~14 (金)	文京区主催「カラーリボンフェスタ」
1/10 (土)	日本郵政グループ労働組合栃木北部支部にて講演会
1/16 (金) ~2/2 (月)	港区男女平等参画センター主催「リーブラ新館展示会」
1/24 (土)	港区男女平等参画センター主催講演会開催
4/6 (月) ~6/30 (火)	「文京区総合体育館ロビー展示」

III. 事務局体制

本フォーラムは、その事業遂行にあたり、労働組合側事務局として日本労働組合総連合会（連合）、NGO 側事務局として（特活）国際協力 NGO センター（JANIC）が共同で事務局を担った。

IV. フォーラム会員団体一覧（2015年8月31日現在）

次頁は、フォーラムの会員団体一覧である。企画委員の担当団体、及び各グループ活動への参加団体に○印をつけた（次頁）。

NGO-労働組国際協働フォーラム 2014年度参加団体

■労組側(14組織)

NO	合同企 画委員 (計9)	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS 等感染症 グループ	母子保健 グループ	シンポジウ ム開催タ スク
1		インダストリアル日本化学エネルギー 労働組合協議会(インダストリアル・JAF)		○		
2		NTT労働組合	○			
3	○	基幹労連			○	
4		国際建設林業労働組合連盟 BWI日本加盟組合協議会(JAC)	○	○		
5	○	国際食品労連日本加盟労組連絡協議会 (IUF-JCC)	○	○		○
6	○	国公連合			○	
7	○	JR総連				
8		自治労				
9	○	自動車総連	○			
10	○	JAM	○			
11	○	電機連合			○	
12		日本教職員組合(日教組)	○			○
13	○	日本労働組合総連合会(連合)【事務局】				○
14	○	UAゼンセン	○			

■NGO側(19組織)

NO	合同企 画委員 (計8)	組織名	児童労働 グループ	HIV/AIDS 等感染症 グループ	母子保健 グループ	シンポジウ ム開催タ スク
1	○	(特活)アフリカ日本協議会		○		
2	○	(公社)アムネスティ・インターナショナル 日本	○			
3	○	(特活)ACE	○			○
4		(特活)エファジャパン				
5	○	グローバル連帯税フォーラム		○		
6	○	(特活)国際協力NGOセンター【事務局】				○
7	○	(公財)国際労働財団	○			
8		(特活)シェア＝国際保健協力市民の会		○		
9		(特活)シャプラニール＝市民による海外協力の会				
10		(公社)シャンティ国際ボランティア会				
11	○	(公財)ジョイセフ			○	○
12		(特活)難民を助ける会		○		
13		(特活)BHNテレコム支援協議会	○			
14		(特活)フリー・ザ・チルドレン・ジャパン	○			
15		公益財団法人オイスカ				
16	○	(特活)エイズ孤児支援NGO・PLAS		○		
17	参加NGO	(特活)アジア・コミュニティ・センター21				
18	参加NGO	(特活)ワールド・ビジョン・ジャパン			○	
19	参加NGO	(特活)HANDS			○	